



市制100周年特別企画
老舗のチカラ
タっかぐラ
Vol.4

第4回目の今回は、国際通りで呉服店を営む十文字屋呉服店の中西久治社長から話を伺いました。

城間市長 十文字屋呉服店は109年前に初代の中西惣吉さんが京都から那覇に来て創業されたと同じました。

中西社長 大正元年、当時の那覇の中心市街地だった上之蔵に、曾祖父が十文字屋呉服店を創業しました。着物の業界では100年超えてやっと一人前といわれていて、その意味では、ようやく老舗の仲間入りをしたと感じています。

城間市長 着物は一度買うと世代を超えて受け継がれるものですね。

中西社長 お客様のお子さんやお孫さんまで大事にしていただけのお世話するという老舗としての責任感を肝に銘じています。長年ごいきいきていただいているお客様から、店の昔話を聞くことも楽しみの一つです。

城間市長 着物を通して、過去から未来へ、親から子、孫へと時代や世代を超えて、思いが引き継がれているんですね。和装(着物)は、七五三祝い、成人式などの人生の節目を感じられるものでもありますね。私も子どもの頃、お正月には、母に着物を着させてもらっていました。

中西社長 文化と着物には深い繋がりがあります。人生の節目を祝う文化も着物を通じてみなさんにお伝えできたらと思っています。

城間市長 沖縄の呉服屋として心がけていることはありますか。

中西社長 沖縄は染織の宝庫と言われています。那覇市には首里織と琉球びんがたの2種類がありますので、私たちも普及に力を入れています。国際通りという土地柄、県外や外国からのお客様も多く、沖縄ならではの着物を求めている方も多くいます。

城間市長 これからも那覇の伝統文化をPRしていただけたらと思います。私も近いうち機会を作って和装で出かけたくなりました。

着物を通じて那覇の文化と技術を次世代へ

十文字屋呉服店 初代・中西惣吉が京呉服を沖縄に広めるために京都から沖縄に渡り、大正元年創業。那覇の中心地で109年にわたり、着物の販売を行う。久治社長は五代目にあたる。



十文字屋呉服店 中西 久治 社長